

第3 谷中霊園の再生方針

1 谷中霊園再生のテーマ

谷中は、江戸から続く寺町の風情を残す地域であり、多くの人が訪れている。その中で谷中霊園は、多くの寺院や木造の建物などとともに、谷中の景観を形成する重要な要素となっている。

谷中霊園は、かつて寺院の境内であった江戸の頃から人々に親しまれた場所であり、明治以降に霊園となってからも、地域の人々の日常の暮らしの中にとけこんできた。

しかし、時代が移り変わる中で、地域からは伝統的な建物や緑が減少してきている。谷中霊園にあっても、霊園の成り立ち・歴史を示すものやそれを知る人は少なくなりつつあり、霊園を取り巻く環境は変化してきている。

こうした現状や特性から、谷中霊園を再生するにあたっては、「歴史」と「緑」という霊園の財産と、「地域」、「霊園を訪れる人々」という特徴を踏まえ、再生の基本テーマを次の通り提言する。

提言：谷中霊園再生のテーマ

「谷中霊園 - 寺町の風情と緑陰に包まれ、まちの歴史を育む空間 - 」

谷中霊園は、明治維新により生まれた霊園であり、歴史の証人として、昔と変わらない佇まいを残し、人々に親しまれてきた。

谷中霊園の再生にあたっては、江戸から続く寺町の風情と、長い霊園の歴史に守られてきた緑のなかで、東京の先人たちとその時代に思いをはせることができる場所として、また、今を生きる人々がつどい安らぎを得ることができ、地域と一体となってまちの魅力を作り出す空間として再生していく。

2 5つの再生方針

谷中霊園再生のテーマを具現化するため、次の5つの再生方針を示す。

再生方針1…江戸以来の歴史や文化を伝える空間として再生

天王寺等に由来する敷地をもち、桜通りや五重塔跡、著名人墓所など歴史的人文資源も多い谷中霊園は、その存在そのものが、江戸から明治への時代の変転と、その後の東京の歩みを今に伝える貴重な歴史・文化遺産といえよう。この貴重な財産を適切に保全するとともに、後世に引継いでいく空間として再生する。

再生方針2…人々がつどい憩うことができる空間として再生

谷中霊園には、著名人墓所などの歴史の足跡を訪ねて多くの人々が訪れる。同時に、谷中霊園は昔から地域の人々に親しまれており、現在も日常の暮らしの中にとけこんでいる場所である。これらの霊園に訪れるさまざまな人々がつどい、憩うことができる空間を創出し、コミュニケーションが育まれる空間として再生する。

再生方針3…地域の貴重なオープンスペースとして再生

谷中霊園の桜並木や大きな樹木は、地域の景観を形づくっている重要な要素である。また、霊園は万一の災害時には避難場所ともなる。再生にあっては、地域らしさを形成している緑を将来にわたり適切に保全していくとともに、緑のオープンスペースとしての機能を高めていく。

再生方針4…故人を偲ぶ静謐な空間として再生

都民共有の空間として再生するとしても、霊園は故人が祀られている場所であることに変わりはない。再生にあたっては、霊園としての静謐さを保持し、墓参者が心安らかに故人と対面できる空間としていく。

再生方針5…緑のネットワークの拠点として再生

谷中霊園の緑は、東京の大きな緑のネットワークを形成していると同時に、都心に残された生物の生息空間としても重要な拠点である。再生に当たっては、緑のネットワークの構成要素として、良好な緑地空間の保全と創造を図っていく。